

永江雅和 著
▶京王沿線の近現代史
4・15刊 A5判178頁 本体1800円
クロスカルチャー出版

通勤に特化した京王沿線の「なるほど！」を紹介

電車との新しい付き合い方を教えてくれる一冊

下沼英由



「なるほど！」を連絡するのとになるだろう。

『小田急沿線の近現代史』の著者によるシリーズ第二作。今回のターゲットは京王沿線だ。ポイントは、前著同様に「京王線」ではなく「京王沿線」というところ。つまり本書は、鉄道そのものではなく、その「沿線」に光を当てているのである。まずびっくりしたのは、「京王」とは「東京の」京と、八王子の「王」の二文字から来ている」ということ。知らなかった……。というように、普段乗り慣れていなければいけません。

乗る鉄、撮る鉄など、鉄道ファンにはさまざまな嗜好がある。それはますます細分化し、深化している。簡単に言えば、素人が容易に近づけない聖域を形作っているように見える。しかし、言うまでもなく、そのフェティッシュの対象である鉄道が実際に走るためには、にわかには想像できない額の金と壮大な計画、そして人並み外れた実行力が必要である。そんな鉄道敷設のための来し方は歴史の古層

と化しており、普段はなかなか見ることができない。営業キロ数八四・七kmは、「関東大手私鉄のなかでも最短」という京王線。地域経済史の専門家である著者が、その手腕を存分に活かして、「京王沿線の近現代史」を掘り起こしたのが本書である。

京王線の特徴を一言で言う「通勤にかなり特化した路線」ということになりそう。例えば小田急線には日本有数の観光地・箱根があるから特急のロマンスカーがあるが、京王線にはそれが無いから特急がない。もともと「比較的市街地化の進んだ地域に路線を敷いた」という事情もある。事実、路線のほとんどが都内にある。本書から浮かび上がる京王沿線史は、郊外の発展史と違ってよいだろう。それは、芦花公園駅と駅名に名を残している徳富蘆花が、京王線が開通する様子を「東京が日々攻め寄せると表現していることから分かる。

とはいえ、本書で言及されるかつての電車の運行風景はとも長閑だ。郷土資料には車掌が車中を飛ぶトンボを捕まえようとする姿、車掌自身が乗車に失敗して列車を追いかける姿の記述が残っている。スタジオリ作品『耳をませば』では京王沿線の美しい自然が描かれているように、今もなお車窓から見える風景はその名残を確かにとどめていると感じるのは私だけではない(本書では沿線開発の「影」の部分として、同じくスタジオリ作品『平成狸合戦ぽんぽこ』にも触れている)。

一口に電車と言っても、各社それぞれの歴史がある。そして車窓の先に広がる沿線の風景に目を転じれば、実は未知なる世界がごく身近にあって、たことに気付かされる。例えば下高井戸駅は、一九三八年に「日大前」と改称され、一九四四年には再び「下高井戸駅」に戻るのだが、その理由は定かではない。著者が「あとがき」で述べているように、「近年の公共図書館や郷土資料館の置かれている状況、及び郷土資料保存に対する行政サポートの貧弱さ」が、そのような事態を招いているのかもしれない。執筆に当たり博覧した資料の一つ一つを参考文献として提示しているのは、研究者としてのプロテストであり、保存されていた資料に対するレスパクトである。

本書を片手に京王沿線を散策するもよし、また本書の口ジックを援用して自身にとって身近な路線を読み解くもよし。いわゆるオタクとは違う、電車との新しい付き合い方を教えてくれる一冊だ。(ライター)

クロスカルチャー出版「クロス」二〇一七年五月二六

永江雅和著『京王沿線の近現代史』

【書評】 図書新聞 二〇一七年六月三日号

⑨

CPCリブレ No.6



⑨路面電車EX 2017 vol.9

発行：イカロス出版 B5判 142ページ 定価1836円。
軌道線の専門誌『路面電車EX』、その最新刊にあたる本巻では、特集として広島電鉄を取り上げ、同社について多角的に迫り、そのバラエティに富んだ車両についても、多くのページを確保したうえで解説されています。話題は日本に留まらず、海外の軌道線についても触れています。今号も、充実した内容を誇るものとなっています。
■発行所：〒162-8616東京都新宿区市谷本村町2-3 イカロス出版(株) ☎03-3267-2766(販売)

⑩



⑩京王沿線の近現代史

永江雅和著。発行：クロスカルチャー出版 A5判 178ページ 定価1944円。
CPC リブレ No.6、『本誌2016年8月号(通巻664号)』の「車内放送」欄でご紹介した『小田急沿線の近現代史』に続き刊行された一冊で、こちらは、京王電鉄京王線系統について、その沿線地域の開発や歴史を中心としてまとめ、わかりやすく解説されているものです。私鉄の愛好者、京王電鉄線沿線に縁のある方に、とくにお薦めします。
■発行所：〒101-0064東京都千代田区猿樂町2-7-6(有)クロスカルチャー出版 ☎03-5577-6707

⑪



⑪新しい仲間と代わります 福井鉄道200形

渡邊 誠著。発行：鉄道友の会 福井支部 A5判 126ページ 定価1836円。
福井鉄道の名車、200形が登場したのは昭和35年のことでした。これは自社の発注による高性能電車で、50余年におよび活躍を続けましたが、すでに3本あった同形も2本は廃車、解体となり、残った1本も現在は営業線外に出てくることなくなくなりました。そこで制作されたものが本書で、200形の概要から足跡など、非常に詳しく知ることができるようになっていました。また、福武線で活躍

⑬



⑬台湾と日本を結ぶ鉄道史

結解喜幸著。発行：交通新聞社 新書判 208ページ 定価864円。
台湾の鉄道には、どこことなく日本の鉄道に通じる雰囲気がかもし出している施設や車両が存在します。これは、その歴史的な背景による日本と台湾とのつながりに起因するもので、本書ではそうした歴史を考察しながら、近年盛んになってきた台湾の鉄道事業者と日本の鉄道事業者との提携、交流の例を展望するといった内容となっています。筆者は、台湾の鉄道に造詣が深く、それに関する著書や記事を多く手がけてこられた結解喜幸氏です。海外の鉄道に興味のない方も受け入れられる一冊として、ここにご紹介いたします。
■発行所：〒101-0062東京都千代田区神田駿河台2-3-11 NBF御茶ノ水ビル(株)交通新聞社 ☎03-6831-6622(販売部)



⑩コドモエのえほん でんしゃのずかん

五十嵐美和子著。発行：白泉社 縦170mm×横165mm 28ページ 定価1080円。
白泉社の育児誌『kodomoe』に付録としてつくられた電車にまつわる絵本が、非常に大きな反響を得たということで、この絵本に加筆を施したうえで刊行したものが本書です。日本全国で活躍している車両、全76種類が収録されていますが、各車両の絵は、いずれも非常に写実的なもので、実車のイメージがみごとに再現されています。また、本書には鉄道に関するさまざまな情報が盛り込まれています。
■発行所：〒101-0063東京都千代田区神田淡路町2-2-2(株)白泉社 ☎03-3526-8010(販売)

⑪新しい仲間と代わります 福井鉄道200形 一去りゆく老兵に贈る賛歌

した車両の解説が続く、200形と同世代の、中小私鉄の自社発注による車両も紹介されています。203編成の保存に向けた活動の経緯も、本書に記されています。私鉄の愛好者で、200形に魅力を感じる方にとって、見逃すことのできない一冊となっています。
■発行所：〒911-0806福井県勝山市本町4-7-10 鉄道友の会 福井支部(渡邊 誠方) Eメール(jrc@fukui.plala.me)

⑬台湾と日本を結ぶ鉄道史

一日台鉄道交流の100年

結解喜幸著。発行：交通新聞社 新書判 208ページ 定価864円。
台湾の鉄道には、どこことなく日本の鉄道に通じる雰囲気がかもし出している施設や車両が存在します。これは、その歴史的な背景による日本と台湾とのつながりに起因するもので、本書ではそうした歴史を考察しながら、近年盛んになってきた台湾の鉄道事業者と日本の鉄道事業者との提携、交流の例を展望するといった内容となっています。筆者は、台湾の鉄道に造詣が深く、それに関する著書や記事を多く手がけてこられた結解喜幸氏です。海外の鉄道に興味のない方も受け入れられる一冊として、ここにご紹介いたします。
■発行所：〒101-0062東京都千代田区神田駿河台2-3-11 NBF御茶ノ水ビル(株)交通新聞社 ☎03-6831-6622(販売部)

⑫鉄道少年

佐川光晴著。発行：実業之日本社 A6判 192ページ 定価670円。
実業之日本社文庫 561、平成26年2月に刊行された『鉄道の旅』を改題のうえ文庫化、加筆、修正したもので、孤児として育った鉄道愛好者の少年が、ひょんなことから自分の過去を知り、幼少期の自分と出会った人々を訪ねるといった内容の物語が展開されています。鉄道愛好者のみなさんが楽しむことができる内容になっていることは、「東海道線211系」「DD51形ディーゼル機関車」など、各章の見出しから瞬時にわかります。
■発行所：〒153-0044東京都目黒区大橋1-5-1 クロスエアタワー8階(株)実業之日本社 ☎03-6809-0495(販売)

新きっぷのルール ハンドブック

土屋武之著。発行：実業之日本社 四六判 224ページ 定価1836円。
平成26年、鉄道のきっぷのルールに関する営業規則をわかりやすく解説した一冊『きっぷのルールハンドブック』が刊行されました。それから現在までの間に北陸新幹線長野～金沢間や北海道新幹線が開業すると、それに関連してきっぷに関する営業規則が改定されました。本書は、先述した一冊の改訂版にあたるもので、その内容が適宜更新されているほか、インターネットによるきっぷの予約、購入、そしてその受取り、クレジットカードの使用、入場券、「青春18きっぷ」の新たなルールについても増補した内容となっています。本書と時刻表を広げながら、机上で旅行の計画を楽しむこともまた一興です。

⑬台湾と日本を結ぶ鉄道史

一日台鉄道交流の100年

駅弁掛紙の旅

一掛紙から読む明治～昭和の駅と町

泉 和夫著。発行：交通新聞社 新書判 233ページ 定価972円。
交通新聞社新書 109。駅弁の掛紙を収集する方、いらっしやいませんか。その歴史は非常に長く、かつてはこの掛紙が広告媒体となっていたり、そこに名所の案内が刷られていることがあったようです。本書では、大正から昭和の初期あたりまでに発売された駅弁の掛紙をひも解くことで、当時の鉄道の事情や世相、観光地や街のようすを見ることが出来ます。筆者は、国鉄、JR東日本、日本レストランエンタプライズに勤務され、駅弁の掛紙は、じつに1万枚以上を所蔵されているとのこと。駅弁の掛紙はカラーで掲載されており、こうした掛紙を眺めるだけでも十分に楽しむことができます。なお、本書は、『交通新聞』にて連載が続いているコラム「掛紙停車」に加筆、修正を加えたものとなっています。



鉄道エッセイ 2017 7月号